

『The Gist of Japan』 (2)

おやさと研究所准教授
尾上 貴行 Takayuki Onoue

前回は、『The Gist of Japan: The Island, Their People and Missions』(日本の要点:その島々、人々、伝道)について、著者ピーリーと内容の概要を紹介し、日本の宗教に関する記述について言及した。今回は、その日本の宗教のなかで数ページを割いて紹介されている天理教について見ていきたい。ピーリーはまず、「天理教は、これまでに挙げた日本の偉大な宗教と同列にして紹介するに値しないと考える人もおそらくいるであろう。確かに、日本の伝統的な宗教ほどには敬意を払うに値しないし、またそれらの宗教ほどの影響力ももっていない。天理教は最近始まったばかりであり、その信者層は社会の下層階級に留まっている。」と述べている。次いで、「しかし、その信仰者たちは、今日の日本でもっとも勢いがあり、天理教は大変活発な宗教団体の1つとなっている。驚くべき速さで発展しており、特にここ最近5年間の動きは目覚ましい。政府の認可も得ており、日本の宗教界でその存在感を高めつつある。信仰者数は5百万人にのぼると述べる専門家もいるが、おそらく高く見積もりすぎであろう。」と述べ、天理教を日本の主要宗教の1つとして挙げている。この書籍が出版されたのは1897年であり、おやさが現身を隠してからちょうど10年後となる。日本全国に次々と天理教の教会が設立されていた時期でもあり、その存在が主に佐賀で宣教活動に従事していたピーリーの目にもとまっと考えられる。以下、主だった記述を拾いながら、その内容を見ていくことにする。

まず、「天理教は伝道宗教であり、日本のほぼ全土に非常に熱心な信徒がいる。これらの信徒たちは、宣教のため非常に熱心に講演を行っており、その努力は全体として実を結んでいる。」として、日本中で活発な布教活動が行われていることを記している。次に、おやさまについては、「創始者は農家の中山ミキという女性であり、一般的にはオミキと呼ばれる。1798年に大和の貧しい家庭に生まれた。」と紹介している。40歳までは彼女の人生において特記すべきことはなかったが、40歳の時トランス状態に入り、神道の神々のひとりクニ・トコ・タチ・ノ・ミコトが顕われ、彼女は多くの苦痛を受けることとなったとして、その時の様子を以下のように記述している。

つかの間の平静の後、ミキは再びトランス状態に陥り、数多くの神々が顕われた。その中には、神道の偉大な神々が含まれていた。これらの神々は、彼女に対して教えの内容について明らかにし、それは唯一真実の教えであり、その他のあらゆる教えに対して最終的に勝利するものであると述べた。神々はまた、彼女はこの啓示を世界に伝えるため神々が指名した道具であると伝えた。この時以来、ミキはこの啓示の宣教に身を捧げるようになった。

その後、ミキはこの教えを人々に伝えていくことになったが、「彼女は、古い宗教との対立を望まず、啓示は神道の神々によるものだとし、教えのなかに仏教のよく知られた要素も取り入れた。この方法で、彼女は人々に耳を傾けさせ、人気を得た」のであると説明している。こうして、天理教は神道や仏教の教えと類似点を多く持つとしながら、その一方でその信条は従来の宗教の教えと根本的に異なっていると述べ、その特徴について言及している。

ピーリーは1つ目の特徴として、まず次のように述べている。

第一に、天理教には非常に一神教的傾向がある。ミキ自身は多神教を受け入れていたが、人間が真に忠誠を誓うべきは太陽と月であると教えた。彼女はこれらを真の神々とみなした。しかし、この二神は常に共に働き、世界やその中にあるすべてのものは彼らの共同作業の産物であるので、彼らは実質的には一つである。彼女の没後、教えはますます一神教的傾向を強め、説教者のなかには、明白な一神教を説く者もいる。

次いでピーリーは、ミキは、神と人間との新しい関係を説いたと述べる。彼女の教えによれば、神々と人間は親子の関係にあり、まさに人間の親がわが子にするように、神々も子供である人間を見守り、愛を注いでいると記した。そして、天皇は人々の長兄であり、神々を親と仰ぎ、人間の代表として、人々を統治していると説明している。

さらに、天理教の教えの大きな特徴として病気の治癒をあげ、以下のように説明している。

病気の救済は天理教独自の教えのなかで主要な部分を成していた。医者も薬も必要ではなく、病気の治癒は信仰のみにてなされると主張する。実際に現れた素晴らしい救済が不思議な話として語られている。その多くは充分に確証があるように思われ、その救済の真実性を疑う理由はない。なぜなら、精神の力やある種の神経障害における個人的な磁力の影響はよく知られており、こういった救済は超自然的なものに言及しなくても簡単に説明する事が出来るからだ。

しかし、このように述べた後で、天理教における特徴ともいえるこの病気治癒は、現在では徐々に見られなくなってきていると結んでいる。

次に天理教における人間の魂や心に関する教えについて言及している。ミキの教えは基本的に現実世界の問題について終始し、未来についてはほとんど述べていないが、人間の魂や心のあり方について、「ミキによれば、魂は神から生じるものであり、死後は神々の元へと戻っていく。また彼女は、苦痛、病気、罪の原因は人間の心の不純性にあると教え、信仰者が神の恩寵を受けるためには、心を浄化しなければならないと説く。彼女は、心が汚れている限り、いかなる祈りや宗教的なつとめ役に立たないと繰り返し主張している。」と紹介している。

また、ピーリーは、ミキの教えとそれを実践している信徒たちが目指しているものは社会的に有意義なものであり、この宗教の活動は非常に倫理的であると述べている。しかし、そう考えられる一方で、世間的には非道徳的と見なされる部分もあると指摘している。

天理教の信仰者は、同じ下層階級の他の人々に比べて道徳的に優れていることは疑いない。しかし、この新しい宗教の特徴のなかには疑念を抱かせるところがあり、政府によって厳重に監視されている。特に、男性と女性が共に参加するとされる夜中に行われる踊りに関して、大きく道徳に反しているという罪が問われている。しかし、これらの疑いは天理教に批判的な人々が生み出したものであり、充分に証明されているわけではない。